



突然現れた鬼にびっくり！

■節分の日の2月3日、市内の各保育園・幼稚園に鬼が出現しました。突然現れた鬼に園児たちはびっくりしながらも、「鬼は外、福は内」と豆を投げていました。



幼稚園で鯉の解体ショーを開催

■2月8日、鹿児島水産高校の枕崎PR隊さつま乙女によるカツオの解体ショーが枕崎幼稚園で行われ、年長・年中の園児42名が見学しました。解体ショーでは、鯉に関するクイズなどもありました。



田布川集落で 鬼火焚き

■2月9日、田布川町の田の神様近くの田んぼで鬼火焚きが行われ、地域の方など多数の方が見学に訪れました。燃え盛る炎を背景に「火の神乙女太鼓 爽」の演奏と「枕崎舞炎鯉」のよさこいが披露されると、大きな歓声が上がりました。



第34回老人クラブ芸能大会

■2月14日、市民会館で開催されました。市内の老人クラブから延べ20団体が出場し、踊りや歌、体操などさまざまな演技を元気に披露しました。



星稜中学校・高校監督による熱血指導 ～まちづくり講演会と野球教室を開催

1月25日と26日の2日間、NPO法人一心会主催のまちづくり講演会と野球教室が開催されました。枕崎高校野球部の小園健一監督の仲介で、石川県星稜高等学校野球部の山下智茂名誉監督と星稜中学校野球部の田中辰治監督が招待されました。

25日の講演会では、野球を通した人間教育を話題に、「あいさつ」と「感謝の気持ち」の大切さについて話がありました。26日に枕崎高校野球部グラウンドで開催された野球教室では、枕崎高校と鹿児島水産高校、中学校の野球部員が合同で練習を行い、バッティングや捕球の仕方などについて指導を受けました。初めての合同練習で高校生の野球に取り組む姿を目の当たりにした中学生からは、「甲子園という大きな目標に向かっていく気迫に圧倒されました」などの感想がありました。



川辺チーム健闘の6位 ～第67回県下一周市郡対抗駅伝競走大会

第67回県下一周市郡対抗駅伝競走大会が2月15日から5日間の日程で開催され、川辺チームは総合6位と健闘しました。初日の15日は本市を通過。第8中継所の枕崎市役所前には、多くの市民が応援に駆けつけランナーたちに声援を送りました。

会場では恒例となった「まくらざきハーモニーネットワーク委員会」による茶節や腹皮のから揚げの振舞いもあり、大盛況となっていました。

本市関係選手では、立神中出身の田畑庸佑選手と別府中出身の茅野智裕選手が出場。田畑選手は、初日の5区で区間新記録を樹立しました。



①スタートの合図で一斉に駆け出すランナー ②ボランティアスタッフによる鯉の腹皮焼き ③力いっぱい走り切ったランナーが続々とゴールしました。 ④参加者にはさつま芋、鯉の腹皮、茶節が振る舞われました。 ⑤バルーンアート教室の様子

木と触れ合って森を知ろう ～子育てふれあいグループ自然花で「木輪カップ」を開催

1月18日、子育てふれあいグループ自然花で「木とふれあって森を知ろう」をテーマに、「木輪カップ」が開催されました。

当日は、別府造園の立石ゆうきさんが「小さな森づくり」と題して、SDGsの目標を交えながら、森林の果たす役割や必要性などについて話した後、参加者でみかんの木などを植樹しました。また、シイタケのコマ打ち体験や丸太切り競争などが行われたほか、昼食時には釜炊きごはんや豚汁が振る舞われ、参加者は楽しいひと時を過ごしました。



新春の枕崎路を駆け抜ける ～第43回枕崎新春かつおジョギング大会

第43回枕崎新春かつおジョギング大会が1月20日、市営野球場周辺、火之神方面への1、2、4、10kmの4コースで行われました。遠くは福岡県からなど、県内外から約650名が参加し、新春の枕崎路を駆け抜けました。毎年恒例の鯉の腹皮等の振る舞いが行われたほか、今年はバルーンアーティストの竹田瞳さんによるバルーンアート教室も行われました。

各部門での優勝者は次のとおりです(敬称略)。
【1km・小学1～3年生】男子＝牧尾優舞、女子＝加藤佑梨【2km・小学生】男子＝臼山諒平、女子＝三宅美桜【4km・中学生】男子＝加藤大夢、女子＝櫻井ひなた【4km・高校生～39歳以下】男子＝屋久楓、女子＝堀優紀奈【4km・40歳以上】男子＝窪亮介、女子＝もとむらりえ【10km・高校生～39歳以下】男子＝富田繁生、女子＝揚村菜月【10km・40歳～59歳以下】男子＝濱崎泰博、女子＝義永祐子【10km・60歳以上】男子＝箱川道彦、女子＝後藤千鶴子



写真はご家族の方からご提供いただきました。

100歳おめでとうございます ～藤田テルさん(道野町)

藤田テルさんが2月10日、めでたく100歳の誕生日を迎え、同日、市と社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

藤田さんは、本市で生まれ育ち、若い頃は神戸で家政婦として働いていました。枕崎に帰ってきてからは、夫と共に養鶏業を営み、5人の子どもに恵まれました。

争いごとが嫌いで、いつも前向きに「ありがとう」と感謝の言葉を言っていたという藤田さん、これからも元気で長生きしてください。